

## 令和2年度子ども・子育て支援推進調査研究事業

### <調査研究報告書タイトル>

児童相談所における虐待による乳幼児頭部外傷事案への対応に関する調査研究

### <実施主体名>

PwC コンサルティング合同会社

(以下、調査研究報告書の概要を記載。)

#### 【目的】

「虐待による乳幼児頭部外傷 (Abusive Head Trauma: AHT)」は子どもに重篤な結果をもたらす一方、受傷に至った状況を子ども自身から聴取することが難しい。本調査研究は、児童相談所が虐待による乳幼児頭部外傷事案に対して適切に援助方針を策定できるよう、判断の基礎資料を提供することを目的として実施した。

#### 【概要】

##### ○事業検討委員会

- ・委員9名、オブザーバー1名で全4回開催

##### ○アンケート

- ・児童相談所を対象に AHT 疑いケースへの対応状況等を尋ねた
- ・調査対象：220 箇所（悉皆）

##### ○ヒアリング

- ・事業検討委員による推薦やアンケート回答結果等を踏まえて選定した児童相談所と医療機関等を対象に、AHT 疑いケースにおける対応状況、診察の際の要点などを尋ねた
- ・調査対象：児童相談所・医療機関等各4箇所（医療機関等には大学の法医学教室を含む）

##### ○推薦文献の集約

- ・児童相談所が AHT 事案に対応する際、参考となる文献の推薦を受け集約した
- ・調査協力：9学会

#### 【結果】

アンケート調査に回答した 171 児童相談所のうち、令和元年度に AHT 疑いケースを受理した児童相談所は 96 か所 (56.1%) であり、AHT 疑いケース受理件数の合計は 243 件であることが分かった。ヒアリング調査の結果、児童相談所は「受傷機転が判らないこともあるが、少なくとも家庭内で子どもに大きなけがが生じた」ことに対して「再発しないためにはどうすべきか」という考え方で援助に臨んでいることがわかった。また、文献調査の結果、各学会から、児童相談所が医学的知見を身につけるうえで適切な論文の推薦を得られた。

事業を通じて AHT 疑いのケースの対応のポイントや考え方が整理された。報告書にまとめた内容は各児童相談所の業務に活用されるものと期待される。